

船舶事故調査報告書

平成22年3月11日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲也
 委員 根本 美奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成21年7月30日 07時40分ごろ、無人の本船が発見された。）
発生場所	不明（北海道枝幸町問 ^{えさし} 牧 ^{といまき} 港東防波堤灯台から真方位031° 4.9海里（M）付近で本船が発見された。） （概位 北緯45° 03.8′ 東経142° 36.1′）
事故調査の経過	平成21年7月31日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第三十八宝 ^{ほうえい} 栄丸、14.41トン HK2-16631（漁船登録番号）、個人所有 14.90m（Lr）×3.43m×1.26m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数65、昭和53年3月
乗組員等に関する情報	船長 男性 65歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和49年11月22日 免許証交付日 平成17年2月8日 （平成22年5月9日まで有効）
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、たこ箱漁の目的で、平成21年7月30日04時30分ごろ、北海道枝幸町問牧漁港を出航し、同漁港の北東方5M付近の漁場へ向かった。 本船の付近で操業していた僚船Aの船長が、問牧港東防波堤灯台から真方位031° 4.9M付近において、本船に人の気配がないのでおかしいと思い、07時40分ごろ、本船に近づいたところ、無人であることに気付いた。 僚船Aの船長は、船長が落水したものと思い、他の僚船に無線で連絡して捜索を開始した。 捜索に加わった僚船Bの船長が、08時00分ごろ、発見された本船の南東方0.7M付近で、救命胴衣を着用せず、うつ伏せの状態でも水面に浮かんでいた船長を発見した。 船長は、救急車で病院へ搬送されたが、死亡が確認された。 死因は溺水と検案された。

<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 曇り、風向 南東、風力 1～2、視界 良好 海象：南東からのうねりが少しあった、水温 約14℃ 特記事項：宗谷南部に濃霧注意報発表中</p>	
<p>その他の事項</p>	<p>船長は、体調不良を訴えていなかったが、日ごろから持病の処方薬を服用していた。 事故当時の水温は、いつもよりは冷たかった。 本船は、たこ箱を上げるための開口部をブルワークに設けていた。 本船は、発見されたとき、機関中立で巻き上げドラムが回転した状態であった。 発見された船長の身体には外傷はなかった。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明 不明 不明 死因は溺水であった。 本船は、問牧漁港北東方沖において操業中、船長が救命胴衣を着用せずに落水したものと考えられる。 船長が落水した状況については、明らかにすることができなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が問牧漁港北東方沖において操業中、船長が救命胴衣を着用せずに落水したため、発生したものと考えられる。</p>	